

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172001059		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー小樽		
所在地	小樽市銭函3丁目297番地5 (電話) 0134-62-1294		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年4月15日	評価確定日	平成20年4月24日

【情報提供票より】 (20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	28日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	15 人	常勤	15人,	非常勤 人, 常勤換算 15人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費2000円 暖房費(11-3月) 10000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

### (4) 利用者の概要 (4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	6	要介護2		2	
要介護3	6	要介護4		3	
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 80.5歳	最低	69歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひまわり会札幌病院・札幌デンタルクリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ユニティー小樽は、札幌を中心に多数の高齢者福祉事業を運営している事業主体に属しているが、運営者の福祉事業にかける思いが深く浸透している。当ホームは、国道沿いの交通の便のよい広い敷地に立地する。開設して2年の真新しい建物で、広々とした居間兼食堂は高い吹き抜け天井に天窓からの採光で、明るい雰囲気にあふれている。活発な町内会活動に恵まれ、地域との交流は盛んである。運営推進会議は2ヶ月に一度確実に開かれ、交流の窓口になっている。運営者が職員の教育に熱心で、全社規模での計画により、手厚い教育が行われている。利用者の張り合いや喜びを引き出すような役割分担や楽しみごとに積極的に取り組み、明るく生き生きとした生活を実現している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着を盛り込んだ新しい理念、家族意見の反映、職員異動についての利用者への配慮、個人情報保護の勉強会など、前回の取り組み事項はすべてが誠実に取り組まれ、大方が改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に用紙を配布し、3週間かけて各人が記入し、各ユニットの管理者が精査検討してまとめあげた。職員それぞれが自己評価によって日ごろの業務を見直すよりどころとするとともに、ホームの運営全体の改善の着眼点を明確にする指針として活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開設当初より2ヶ月に一度、着実に開催されて、討議も活発に行われている。議題としては、ホームの運営状況、参加行事、自己評価、外部評価、災害対策などについて話し合われている。利用者の問題行動について地域包括支援センターから専門的なアドバイスを得たり、徘徊に関して町内会の協力を得たりして活動に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情はお互いに理解を深め合う貴重な機会と捉え、前向きに吸収し、改善に生かしている。行事などで家族が集まった機会に家族会的な話し合いの場を持って、聞き出すようにしている。意見・苦情を受けたときの処理マニュアルができており、受けた意見・苦情は担当者会議で検討し、処理結果は本社に報告すると同時に家族にも正式に文書で報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町内会自体の活動が活発なこともあって、地域活動への参加、交流は積極的に活発である。町内会の文化祭、運動会に参加し、多彩なボランティアを受け入れている。防災についての協力関係についても話し合われている。また、近隣の小学校の公開授業や運動会、学習発表会にも参加している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の自由な意思を尊重し、心地よい生活の場を提供するという、当初からの理念に加えて、地域とともに歩む暮らしを創造する、という内容の理念を、職員とともに話し合いを重ね、練り上げて新たに付け加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たな理念の作成の過程で職員の理解・関心が深められ、毎日の申し送りの時には理念を読み上げ、意識付けをして実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、地域活動への参加、交流は積極的で活発である。町内会の文化祭、運動会に参加し、多彩なボランティアを受け入れている。防災についての協力関係についても話し合われている。近隣の小学校の公開授業や運動会、学習発表会にも参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員に用紙を配布し、各人が記入し、管理者が精査検討してまとめあげた。職員それぞれが自己評価によって日ごろの業務を見直すよりどころとするとともに、ホームの運営全体の改善の着眼点を明確にする指針として活用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開設当初より2ヶ月に一度、着実に開催されて、討議も活発に行われている。利用者の問題行動について地域包括支援センターから専門的なアドバイスを得たり、徘徊に関して町内会の協力を得たりしてサービスの向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者および職員は頻繁に市役所を訪れ、担当者と懇意になっている。実務的な用件に止まらず、市の行っている様々な住民サービスの情報を得たり、新たなサービスの要請をしたりなど、積極的に行政との連携に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ユニティー小樽通信」を毎月家族に送付している。通信にはホーム全体の様子のほかに個人別の連絡として、その月の最もよい顔写真に担当者手書きの文章が添えられ、心の通った通信の工夫がされている。家族が来訪の折には個々の詳しい報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情は前向きに捉えて吸収し、改善に生かしている。意見・苦情を受けたときの処理マニュアルができており、受けた意見・苦情は担当者会議で検討し、処理結果は本社に報告すると同時に家族にも正式に文書で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業主体の規模が大きく、人員不足のやりくりの上から人事の異動は避けられないが、引継ぎの期間を十分に取るなど、利用者への配慮は慎重に気配りされている。職員の異動は家族に手紙で報告している。	○	利用者への、退職者の挨拶は本人の自由に任せているが、礼儀としてどうか、との視点から検討してみたい、とのことなので、賢明な判断、方針決定を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主体が職員の教育に熱心で、本社主導で計画的な教育が行われている。各事業所に研修委員が設けられ、現場の声と各人の希望や目標を元にした計画が作られている。法人内外の研修に多くの職員が参加の機会を与えられ、また報告・発表が行われ、研修成果は全職員に共有される仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道および小樽市のグループホーム協議会に加盟して同業者同士の交流に参加しているほか、地域の在宅サービス事業者らと集会をもち、情報交換を図っている。また近隣の同業者と月1回定期的に職員も含めた交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に先立ち、職員や他の利用者、ホームの雰囲気に慣れてもらうために見学や遊びに来てもらうことを繰り返しながら、本人が納得し、安心して新しい生活に入れるよう、心がけている。入居してからも、時間をかけた職員の努力が行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の得意な利用者と一緒に食事の支度をしたり、農作業の得意な利用者には畑仕事を教わったり、自室やリビングの掃除を一緒にするなど、共同作業の場を多く持つように心がけながら、喜怒哀楽を共有し、ともに支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	率直な表現の難しい利用者でも、外出したときの嬉しそうな表情、興味ありげな様子、無理に誘ったときの不快そうな表情、など日常生活を注意深く観察することによって希望や意向の把握が可能であり、そのように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の介護計画は、管理者が本人と面談を行い、本人の気持ちや表情、認知度などを確認し、家族の希望や情報を得て会議を開いて初期プランを作成している。定期的な介護計画は、職員で意見交換を行い、利用者や家族の希望を取り入れて作成し、利用者と家族に説明をして同意を得て確認印を貰っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的な計画の見直しを行っている。利用者の入退院による状態変化や、日々のケアを行う中で見直しが必要になった時は、期間前であっても随時見直しを行っている。家族からの要望があった時も、随時、評価や検討、見直しを行い現状にあった介護計画を柔軟に作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎は、家族と相談をしながら柔軟に対応している。家族が通院送迎を行う場合も、状況により職員も同行している。可能な範囲で、受診回避や医療処置を受けながらホームで生活が出来るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医は、家族の協力のもと、通院介助も柔軟に対応している。月2回の協力医の往診や利用者のかかりつけ医の往診も行われているため、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人、家族と重度化にともなう対応について話し合いをして確認をしている。その後も医師、家族、本人、職員で話し合いを行い随時意思の確認をしている。体調の悪化している利用者に対しては、利用者個人の対応マニュアルを作成して、常に、全職員が対応出来るように方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、個人情報保護法に関して学び、ホーム内の会議でも全職員で勉強会を行っている。大きな声でのトイレ誘導や、利用者に対する言葉がけも、一人ひとりの誇りを傷つけないように、職員同士で注意し、プライバシーを損なわないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が嫌がる事を無理強いすることなく、一人ひとりのペースに合わせて生活できるように配慮している。食事時間も、調理後2時間を目安に、気分や体調にあわせて食べられるようにし、時間内に食べられないときは、代食を準備して提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意分野を生かして、調理や盛りつけなどを一緒に行い、同じテーブルで職員も食事をして、楽しく食事ができるように配慮している。行事食や利用者の希望献立も柔軟に取り入れたり、流しそうめんやにぎり寿司など、食事が楽しめるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日午後は可能になっており、浴槽のお湯も毎回交換している。一人週2回を入浴目標にし、入浴拒否者は、清拭を行ったり、家族と一緒に入浴して貰ったりしている。ADLの高い利用者は、夜間入浴も行えるように柔軟に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味を生かして楽しめるように、貼り絵や習字を活動の中に入れてたり、体を動かす事が好きな利用者に対しては、リズム体操や太極拳などのサークルに参加して貰っている。利用者の希望で買い物や散歩に外出し、気晴らしができるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や散歩は利用者の気分や希望に合わせて行い、週1回を目標に、近隣を1対1でゆっくり散歩を行っている。天気の良い日は、ホームの敷地内に出て椅子に座って外気浴を行っている。	○	冬季の外出は、受診のみになりがちなので、冬季でも外出できるような施設や方法を考えて、定期的に外出できるよう期待したい。ホームの敷地内で、暑さをしのいで外気浴ができるようにテントを準備する予定なので、その実現を期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や居間には日中鍵をかける事なく、利用者が外出する様子が見られた時は、さり気なく声かけをし、一緒に外出して自由な暮らしができるように支援している。玄関には、チャイムを設置して、利用者の外出を見逃すことがないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、年2回、利用者や町内会長参加のもと避難訓練を行っている。救急救命、避難経路の確認も定期的に行い、消火器は利用者も一緒に使い方を訓練している。	○	今後は近隣地域にも声かけをして、災害時の協力を呼びかけて行きたい意向なので、その実現を期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社の管理栄養士が立てた献立を基本に、利用者の体調や状況に応じて、お粥、刻み食など対応している。食事と水分摂取量はケース記録に毎日記録し、摂取量が少ない利用者には、病院で処方された栄養補助食品を使用してカロリー不足に配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けになっている居間は、利用者が制作したちぎり絵や季節の花が飾られ、居心地良く過ごせるようになっている。和室のゲストルームを解放して、利用者同士や家族と一緒に話をしたり、ゆっくりくつろぐ事ができるように配慮している。時計が数カ所にかけてあり、何処の位置でも時間がわかるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者と一緒に職員も掃除をして、清潔で気持ちよく生活できるように配慮している。ぬいぐるみや使い慣れた椅子、テーブル、タンスなど個々の利用者の馴染みの物が置かれ、安心して生活できるような居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。